

四季のコンサートだより

1992年11月1日発行

浜松音楽友の会

事務局 浜松市東伊場1-10-507

電話連絡454-1746(高田)

“音楽鑑賞あれこれ”

鈴木庸夫

戦後の学校教育で、最も進んだ教科の一つが音楽科であると言われています。私たちが学んだ戦前は「唱歌」と呼ばれ、専ら先生の弾くピアノかオルガンに合わせて歌うだけのものでした。戦争が始まり、ハホト・ハヘイ・ロニト等と、音を聴くと同時に叫ぶ「和声聴取」が加えられた位のものでした。つまり、系統的な音楽の鑑賞教育を受けたという記憶は、全くありません。

戦後、市立図書館の一室で、吉野 茂氏の名解説によるレコード鑑賞会が、毎週土曜日の夕方開かれ、美しい音楽に心を満たされた楽しい思い出があります。また昭和28年頃、NHKの第1・2放送を同時に使った「立体放送」による、クラシックが流され、2台のラジオのまん中に寝ころんで聴いたのも、懐しい思い出です。浜松では、全小中学校に「L・D」が設置され、子供たちは美しい音質と映像とによる鑑賞学習ができ、正に、隔世の感がいたします。

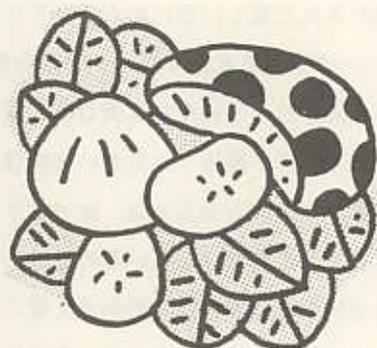
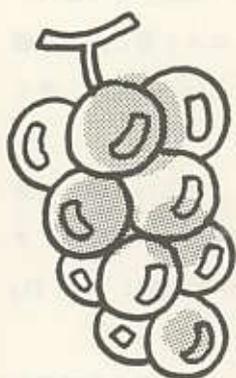
ところで、最近「ふれあい音楽会」に来て子供さんの多い事に驚かされます。しかも、その鑑賞マナーは、早く来て沢山の席取りをする大人とは、比べようもない程素晴らしいものなのです。親から厳しく言われ周りに迷惑をかけない様、ひたすら我慢して静かにしているではありません。音楽の世界に浸りきって楽しんでいるのです。純粹に音楽美を感じとっている子供たちの姿には、感動さえ覚えます。この心豊かな子供たちが、この街を「すてきな街浜松」にし、「音楽の街浜松」にしてくれるのだと思うとき、音楽を聴く以上の楽しい夢を私に与えてくれるのです。



四季のコンサートに行って

小学校五年 市川 祐美子

私のお父さんとお母さんが「四季のコンサート」に入っています。どちらかが行けないときにだけ連れて行ってもらえます。私が行ったのは夏のコンサートで、小山実稚恵さんのピアノでした。そのときはお父さんと行きました。会場に入ってから何分かで演奏が始まりました。私はピアノを聞いて「音が大きくなったり小さくなったりして音がちがうな」と思いました。何曲もひいているので私は「よくおぼえられるな。たくさん練習をしているんだろうな」と感心しました。ピアノの音はとてもよくひびいていい音がしました。少しだけ人の話し声が聞こえたのは残念でした。ピアノをひく小山実稚恵さんはうでが細くてもとても力強い音を出していたのでびっくりしました。私はピアノをならっているけれど小山実稚恵さんとはちがって下手だからもっと練習して上手になりたいです。



「ふれあいおんがくかい」に寄せて

日置 美恵子

浜松は「楽器のまち」そして「音楽のまち」といわれはじめて、随分コンサートの数が増えてきました。そして、この「ふれあいおんがくかい」は「音楽のまち」に先がけて誕生し、着実な歩みを続けています。私が友人の勧めでこの会に入会したのは多分、今から9年前だったと思います。

初めて4才の娘を連れて市民会館へ入った時、保育室のあることを知り、驚きました。娘を預けようとしたのですが、離れられなくて「静かに聞くから」と約束をして座席に着きました。そして、今演奏が始まろうとする時になって、娘が、「お母さん、トイレに行きたい」と言い出したのです。がっかりするやら、回りの方々に申し訳ないやらでやっぱりまだ無理なのかなと残念に思いました。しかし、その娘も今はしっかりと音楽を楽しめる中学生になりました。私ももちろん、じつりと楽しませてもらっております。

その後入会した、いくつかの家族と共にコンサート後に会食をしながら、今日の演奏についての感想を語り合うのも楽しみの一つになっています。その中でいつも出てくるのが、演奏内容の素晴らしさ、インタビューの楽しさ、料金の安さのことです。特に、他のコンサートでは、ほとんど聞くことのできない、演奏家の話しが聞けることによって、その演奏家を身近に感じ、印象深く心に残ります。とても良い企画だと思います。

「音楽のまち浜松」にふさわしいコンサートをこれからも開いていただきたいし、もっともっと多くの人に入会をお勧めしたいと思います。

1993年
10周年記念特別プログラム

春 小林一男テノールリサイタル 4月20日(火)

夏 野島 稔ピアノリサイタル 7月14日(水)
日本を代表する世界的ピアニストであり、その深い音楽が世界中を驚嘆させています。

★特別コンサート

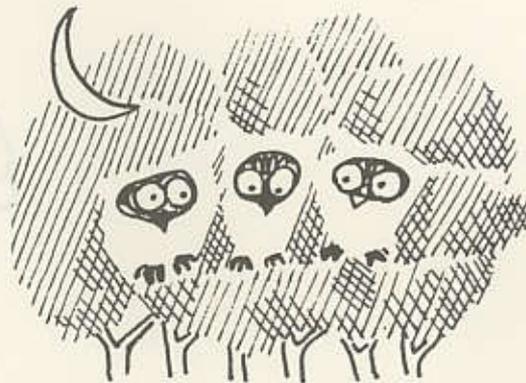
桐朋学園大学オーケストラ演奏会 9月2日(木)

指揮：エマニエル・クリピン リヨン管弦楽団指揮者
ソリスト：未 定

秋 漆原朝子ヴィオリンリサイタル 10月22日(金)

冬 田宮堅二（トランペット）とその仲間たち 11月18日(木)
ベルリン・ドイツ・オペラ管に10年在籍したわが国のトランペットの第一人者です。
他にホルン、トロンボーン、チューバ等によるアンサンブルをお楽しみください。

※以上5回の演奏会で会費は5,000円です。



—保育室を御利用の会員様へ—

保育室担当のスタッフが代わりましたので、来年度より下記にお申し込みください。

053(454)5359 戸部

開演30分前から終演まで、保育専門のスタッフがお預りします。(1回300円)

コンサートの前日までにお申し込みください。

こんな私がスタッフです

戸部 芳子

—桐朋学園オーケストラ演奏会の巻—

1986年秋のことです。(私はこの年の春から放送の係になったのです)「アナウンスの声が大き過ぎるわよ。あんなに大きな声でなくてもいいのよ」と会長からのアドバイス。休憩時間にお知らせを伝えた声が異常に大きかったのです。私は「ハッ」としました。私がアナウンスをしている時、舞台そではオーケストラの学生さん達が大勢いてそれぞれおしゃべりに興じていました。アナウンスをしている自分の声が聴き取れないので大きな、大きな声を出していたのです。マイクを通して話していることをすっかり忘れてしまっていたのです。その声を聴かされた皆さんは、何を大声で怒鳴っているのだろうと思われたことでしょう。恥ずかしいことでした。

—堀米ゆず子ヴァイオリンリサイタルの巻—

1990年冬のことです。「あー。もう一度(ステージに)出ようと思ったのに……」第一部終了後、皆さんの拍手が鳴り続いていたので、その拍手に応えるべく、渡辺さんと堀米さんがステージに向かおうとしてくださった時、私が「ここで15分間の休憩をいただきます」と無粋なアナウンスをしてしまったのです。当然のことながら皆さんの拍手は止んでしまうし、お2人の出鼻はくじいてしまうので、渡辺さんが嘆かれるのは当たり前のことです。せっかく気持ちよく聴いてくださっていたのに演奏家の方々、そして毎回音楽会を盛り上げてくださっている会員の皆さん本当に申し訳ありませんでした。

この他にも沢山の失敗を繰り返して来た私ですが、これからは演奏家と聴衆が作りあげてくれる音楽会を邪魔しない本物のスタッフを目指して頑張りますので、今後も叱咤激励のほどよろしくお願いします。

追記：今年の春から、私は保育室の係に代わりました。(前向きな話し合いによるもの)



会員の皆様へお願い

会員だより 皆様のご寄稿をお待ちします。400字詰原稿用紙2枚内でもお願いいたします。

会員登録 は年度が変わってもそのまま継続されます。

退会希望の方は住所 氏名 電話 会員番号を御記入の上前年度の12月末日迄に事務局宛退会の旨御連絡下さい。

名義変更の方も葉書に旧会員と新会員の住所 氏名 電話 会員番号(旧会員の)をお書きの上事務局宛お送り下さい。